

福井県立大学 × たんなんクラブ

「農家って、どう?」

についてトークしてみた

○県立大学の創造農学科に入った理由は?

福岡: 実際授業受けてみてどうだった?
水島: いやあ、思ってた以上にフリーダムっていうか、大学の授業ってこんな感じではないの?って思いました。てっきり座学ばかりだと思っただけですけど、もう毎週毎週ずっとフィールドワークで、いろんな農家さんが営業しているところを実際に見に行ったり。肌身で感じられる学習ができるのはすごくいいなって思ってます。

水島: 僕元々は海洋の方に行こうと思ってたんです。でも創造農学科ができるって話を聞いて、それでオープンキャンパスに行ったら何か活気のある先生方ばかりで。それ見たときに、もうここかなって自分のなかでビビってきて、新しいものに挑戦していくってのも大事だし。

今回は農業に興味のある学生さんと、そんな学生に興味のある農家との対談を企画してみました。
お互いから見た「農家像」を知りたくて、世代間のギャップにびっくりしたくて、緊張してたのは最初の数秒。お互い聞きたいことだらけの展開に。

協力してくれたのは、学生代表に創造学科一年の宗近 眞子さんと水島寛暉さん、そして准教授の篠山 治恵先生。
若手農家代表は米農家の山田 康二さんと園芸農家の福岡 亮太さん。

一部表現は変えています。リアルなトークをどうぞ。



宗近: 私は何がやりたいっていうのはなかったの、いろんな大学のオープンキャンパスに行ってたんですよ。それでこの大学の、1日創造学科を体験できるみたいなおープンカレッジに来て。それで私もすごいビビって来て。すごい楽しくて。でもびびって来たけど、それで入るってなるとちょっとまだ自分の将来、農業系行っているのかなって思ってた不安だったんですけど、農業体験とか行って、なんか自然栽培のこととかを知って、いいなって。農業、ちょっと進みたいなと思って。
山田: オープンキャンパスとかがうまくいったんですね先生。
篠山: そうですね愉快な先生が多いのですね。みんな、よく思いつくなっていうイベントもバンバン出してください。

水島: いやあ、思ってた以上にフリーダムっていうか、大学の授業ってこんな感じではないの?って思いました。てっきり座学ばかりだと思っただけですけど、もう毎週毎週ずっとフィールドワークで、いろんな農家さんが営業しているところを実際に見に行ったり。肌身で感じられる学習ができるのはすごくいいなって思ってます。

福岡: いいなあー。
篠山: やっぱやりやうかと思っただけが原動力になりますね。
山田: 体験してから知識入れた方が入りやすいですね。
篠山: 3年次編入も大丈夫ですよ、今からでも笑

○将来やりたい」とは？

水島：実は具体的にこれから何やりたいかっていうことが全然定まらなくて。中学生ぐらいから、社会出てなにすりゃいいんやろって。今いる人たちが社会は回ってるのに、俺が出てどうする？みたいなことを考えて、新しいことせんとあかんのかなーって。

福岡：中学で？

水島：そうです。本当にずっと思い悩み続けてます。

宗近：私は高校のときからは将来の夢がないことに結構焦ってて。大入ってから今は、今パッと決めるんじゃないかって、緩やかに決めてけばいいかなって思ってます。ちょっと最近固まり始めました。

福岡：具体的にはどんなこと？たとえば就農とか？

宗近：私はこの大学に入る前は、農家になりたいって思ってた。でも入ってから、農業とデザインとか、農業と福祉とか、農業と関わる仕事ってのも面白いなと思って。今はどちらかというと農業がつつりっていうよりは、関わりながら仕事をしたいって思ってます。

篠山：半農半Xとか農福連携とか最近いろいろありますね。

山田：うちのクラブにもいますよ。農福連携やってる人。バラやりながら、福祉にも関わって。

宗近：私はインターンシップで農福連携している農家さんのところに行

きました。

山田：大学がいろいろ経験させてくれて、選択肢を広げてくれるのは嬉しいですね。なんも選択肢ないのに夢なんですかって言われてもね。福岡：その専門家に実際に会わせてもらえるんですもんね。それも早くから。

○学生から見た農業のイメージは？

水島：成功してる人は一握りじゃないかなって。そういうイメージが強くて、単純にちょっとやってみようくらいの気持ちじゃ成功しないもんなって思います。新規就農されても辞める方が結構いるっていう統計を結構ネットで見たりするの。

山田：結構、利益薄いんですよ。薄くて波がある。どの世界もそうなんだけど。なかなか他の業種に比べると、ぼんって儲からないね。あと再生産ができない。1回作ったらそのお米もおしまいなんで作り続けなきゃいけない。1回作れたからと言って、来年も作れるわけじゃない。

毎年気候も条件も変わる状況でずっとコンスタントに同じ品質を作り続ける、っていうのは、他の業種よりも難しいんじゃないかなって思います。

宗近：私は高校のときは正直、農業してる方って大変そうって思ってたんですよ。だけどこの大学で農家さんと出会って、農業してる人って、自分のやりたいことっていうの

をやれてるなと思ってる。サラリーマンは自分がこうしたいと思ってる。会社の中だとあんまりできないのになって。農家の方はこうしたい、やりたい、って強い意志があってなんかいいなって。

○二人はどうして農家に？

山田：僕はサラリーマンも1回やってみてたんですけど合わなくて。自営っていうか、自分で独立した方がいいなあってなって、いろいろあつて農業をやるうと思ってる。で稼げる農業何かなって調べて、なんだかんだで今はお米をやってます。

水島：それだけですか？

山田：うん。農業にキラキラした憧れとかはなくて、自分が社長になれる、稼げる、冬は遊べる、もうこれだけで。福岡くんには怒られるかもしれないけど笑。お前今遊んでんのかって。

福岡：休みも大事です笑

山田：春夏秋働いて、冬はどっか家族で遊びに行くみたいな感じがしたくて農業始めてるんで。何か農業のこだわりがあつて始めたんじゃないかって、こういう生き方をするかで農業を選んだってのもありますね。

福岡：僕は、親が3世代で農業やってて、だから自分もいざやることになるのかなーってのは思ってた。僕は大学入って先生にならなかったんですけど、ずっと迷ってた。なんだかんだあつて、いつ就農しよ

うって親言うのかを。結局早くやめて、二十五で就農しました。

山田：でも子供から農家だと、やっぱり違うの？農業に対するイメージって？

福岡：贅沢なことかも知れないですけど、自然に道ができてるっていう思いはありました。長男なんですけど、おじいちゃんから「お前が継ぐんや」って小さいころから言われ続けてて。

宗近：やつぱりキラキラした憧れとかはないんですか？

福岡：ないですね。現実がずっと見えてたんで僕は。でもやってみたら楽しいし。

山田：やる前と、やつぱり実際に入り込んだら違うの？手伝いとして入った頃と本気で農業継ぐかってなると、なんか変わる？

福岡：気持ちの面はかなり変わりました。昔はバイト感覚、おじいちゃんからお金貰えるとかそういう感覚。今はもう何かしつかり働いてお金を自分で稼いでくるみたいな気持ちは芽生えてきました。もう1回バイト感覚に戻ったらもう続けていけないと思う。

篠山：やつぱり実際に就農してみないとわからないことってあるんですよね。



山田：福井に来て、農業したいって
研修してたんですけど、どこ行つて
も農業なんか儲からんぞって言うん
すよ。やらない方がいいとかもう米
価が下がるとか。地元の人は何か、
無意識に追い出しちゃうんですね。
ネガティブキャンペーンをすごいし
てるんで。そんなこと言われちゃう
と、地元の若い人は農業やりたくな
いって外に出ちゃう。んで、
集落では後継者が居ないって、また
ぼやいてる。

水島：後継者がいないって話はよく
聞きますけど、そんな実状があるん
ですね。

山田：それで時代とか農政のせい
にして、農業も頑張れば儲かるよと
言ってくれたらみんなやりたいや
りたくなってたのかなって。

福岡：アルプラザの辺も埋め立て
あるのも、やっぱりその土地の後継者
がないから、もう売っちゃえみた
いな。

山田：多分これからもっともって、
農業の良い面も悪い面も見てくる
と思います。すごくキラキラしてる人
も見ると、折れて離農しちゃった人
も見ると思うんで。ただ両方現実な
んでそれは。どっちかが運が悪かつ
たじゃなくて、経営者として資質が
ある人とならない人は必ずいるので、ど
の業界でもそれを見極めないと、キ
ラキラしてる方がいいとは限らない
ことを覚えておいてほしいかな

○6次化とかしてますか？

山田：僕地元が福井じゃなかったん
で、最初お米作っても売るところが
農協しかなくて。農協だけだとやっ
ぱ単価が上がらないんで、何とか直
売を増やしたくて。ってなったとき
に、名刺代わりのものがあるなど
思ってた。それで福岡の会社と連携し
て、うちのコシヒカリでお酢を作り
ました。あとみりんも愛知県の会社
とコラボして作らせてもらって。こ
れでお話すると良いきかけになっ
て、じゃお米を買ってみようかなと
か、みりんとお米とセットで買おう
かなって言うって直売のお客さんが増
えて。最初は赤字でしたけど、今は
ちよつと軌道に乗ってきた感じだす。
でも加工品だけでは利益はあまり上
がらなくて。頑張つてそこでお米の
売り上げに繋がれば、やっとな元が取
れるっていう。

宗近：難しいですね。福岡さんは？

福岡：うちは一応観光農園やってま
す。一昨年ぐらいから始めました。
6次化も考えてはいるんですけど、
スムージーとかアイス、キッチン
カーでの販売とかどこでもやってる
ようなのしか浮かんでこなくて。
やっぱうちの特色を出したいと思っ
て、いろいろ考え中です。あとそ
ういうのを調理できる人も探した
かったんですけど、なかなか見当た
らなくて。

水島：一言に6次化といっても色々
考えなきゃいけないことがあるん
で、

すね。

山田：人口が多いところだと馬鹿売
れするけど少ないとこだったら、6
次化は購買層の奪い合いなんで。ウ
チはたまたま自炊する、高齢の方が
多かった地域にいるので売れた感じ
です。ファミリー層を狙った商品
だったら僕も大転けしてたなって。
篠山：客層って大事ですよ。こう
いう加工品を売るときの客層がほん
とに。やっぱり誰に向けて売るかっ
てことをまず考えないと駄目です
んね。

○農業やって嬉しかったこと、 楽しかったことは？

福岡：商品を作って自分でスーパ
ーに並べたりもするんですけど、並べ
ている最中に後ろからバーって手が
伸びてきて。これがすごい嬉しい。
それでお客さんから直接「美味し
かったよ、またいつぱい持つてき
て」って言われて。そういう人の声
を聞くと、また頑張ろうって励み
になってます。美味しいって言われ
るのが一番かな。

山田：僕は今から来年の計画を立て
て、お米をこれだけ作るとかってい
う計画を立てるんですよ。肥料と農
薬をこれくらい使つて、ここの田ん
ぼで何俵取れて、機械はここを直す
からこれだけかかって、そしたらこ
んだけ手元に残るなって。それで年
取こなんもんだなってことを考え
ている時が一番楽しい。

それで来年秋になると、「ん？計画
と全然ちがうやん！」ってなるの笑
そのとおりに絶対行かないですよ
ね。



〇仕事を選ぶ上で、大事にしたいことは？

山田：これは2人というか創造農学科の学生さんたち全員の意見をすごく聞きたかった。仕事の中身とか、やりがいとか、お金とか、経験とかその優先順位とか判断材料を教えてください。

水島：一番はやりたいことが最初に来て、その次はお金ですね。

山田：お金よりも仕事内容？それは自分のしたいこと？それとも周りに与える影響？

水島：どっちもですよ。社会貢献もしてて、自分の経験としてもプラスになって。

福岡：難しいなあ笑

宗近：私は、自分の興味あることとお金は同列です。2つとも叶えられる仕事。休みもちゃんとあつて。

山田：福岡くんはちゃんと休めてます？

福岡：毎日何かありますね、正直。笑。でもね、計画さえしていれば、好きなきときに休めるっていうのはやっぱりあります。自分がした苦労は次の世代に残したくないと思う。山田：なるべくね。楽しく働いてほしいなと思うんやけど、若手には・・・

と、ここで既に時間オーバー。全員がエンジンがフルになったところでしたがお開きになりました。



お互いがお互いの経験に興味があつて、質問が止まらない状況。学生のお二人も普段から授業で現場に行き、質問しているので、自分たちの考えをもっており、農家のお二人は質問されることで、普段の業務や経験を客観的に見ることでできたようでした。

これからも若手農家という時期に、どれだけ多方面に、どれだけ異業種との交流ができるか企画していこうかと思えます。コラボしたい方、お待ちしております。

福井県立大学創造農学科 あなたも学んでみませんか!!

食用作物、園芸作物、伝統野菜、薬草などに着目し、新品種の開発の実践を学びます。

生物
環境

農業
食

未来

文化
人の心
社会

食品加工、食品保蔵、食品開発、マーケティングなど、食品製造や流通を学びます。

大規模農業、次世代施設園芸、植物工場等、高度な機械化やAIなど多様な作物の栽培技術を学びます。

福井県土の農環境保全、微生物による環境浄化・廃水処理技術の実践を学びます。

専任教員に加え、県内の先進的な経営農家、IoTやAI関連企業・6次産業化関連企業の経営者などを講師に招き、実践的教育を行います。

【お問合せ先】

〒910-4103

福井県あわら市二面88-1

福井県立大学あわらキャンパス 創造農学科

TEL 0776-77-1443

FAX 0776-77-1448

E-mail

aw-jim@fpu.ac.jp (あわらキャンパス)